第４回　金沢競馬検討委員会　会議録（要旨）

日時：平成１７年１１月１４日（月）１３：３０～
場所：石川県庁１１階　１１０９会議室

１　開会

○　あいさつ（石川県競馬事業局長）

○　補足説明
・　補足資料に基づき説明

２　議題

(1)　「中間的なとりまとめ」のフレーム（事務局案）に関する協議

○　事務局案の承認

(2)　新たな振興策、経営改善策に関する意見交換

○　全体的なこと（整理方法等）について

委　員：　「ナイター開催の可能性の模索」について、設備投資に１５億円程度の費用を要するという試算であるが、これは他場を参考にしたのか、県側での試算になるのか。

事務局：　この試算は、前提条件によって金額が変動するが、過去に石川県議会で答弁している金額が１５億円程度ということである。

委　員：　右側の具現性について、「速やかな対応が必要」、「対応に向けて検討が必要」に分類しているが、すぐに対応するものと、中間地点なのかもしれないが、１年間かけないと成果が計れないというものではなく、短期的に成果が計れるような施策をピックアップしてはどうか。

事務局：　「速やかな対応が必要」には、来年度の当初予算から反映すべきもの、あるいは検討を重ね来年度のどこかの時点で入れるようなものもある。「対応に向けて検討が必要」には幾つかの諸条件が整えば対応に向けて進んでいけるというようなもの、それから経費や費用対効果等を見た場合、非常に難しいというようなもの、などの整理になってくる。今のところ、この大きく２つに分類し、早速取り組める部分については１８年度からでも対応していきたいということで分けている。

委員長：　これは作業仮説というものであり、色々なランク付けがあると思うので、この委員会の意見を踏まえ、中間報告レベル、あるいは最終報告レベルになるのか分からないが、詰めていけばどうかと思っている。今回は全ての意見について検討したいと思う。

委　員：　「意見への対応」について、出来ないもの、あるいは経費をかけないで出来るものがあるかを整理すべきである。中でも、「喫煙場所の限定」はやろうと思えば、すぐ出来ることであるし、馬場内を子供の遊び場みたいなのに、即、来春からでもやってはどうかと思う。問題は主催者がやる気になるかどうかであるが、本日の資料を見て非常にやる気を感じており、どうしたら良いかということを検討委員会で整理して県・市に返すのが良いのではないか。

委　員：　経営改善策の入場料金の見直しについて、競馬法では入場料金を徴収することになっているが、ファンがあっての競馬であり、娯楽であることからオープンシステムをとるべきである。

　あと、今のジョッキーの乗り方が馬場に合った乗り方になっていないので、運営の面だけでなく、その前の段階として組織的なこと、あるいは馬の技術的なことについての検討もしてもらいたい。

事務局：　競馬の運営に関し、組織面、レース編成、施設の馬場整備といったことについても、盛り込めるものは盛り込んでいきたい。特に組織面については、主催者としてしっかり対応していきたい。

　「資料３」の取りまとめの分類については、効果的なもの、試験的なもの、効果が期待できないものというような区分等、どういう表現の仕方が適当か、今後の議論をお聞きして、整理させてもらいたいと思っている。

委　員：　振興策の「専用場外発売所の設置」については、まず、増収策として有効なのかどうかを議論すべきであり、地元の合意に関する議論とは別に考えるべきである。

　また、ナイター競馬の件については、１５億円程度は必要ということから難しいと考えてしまうが、質を落としたり、最新技術を使う等により、もっと安く作れる可能性があるのではないか。もう少し調べてもらいたい。

事務局：　場外発売所については、同様の考え方である。現在、色々な場所、色々な形態の場外発売所があるということで、実態を調査し、現在、整理をしている段階であり、ある程度取りまとめられる部分があれば、委員会にも示したいと思っている。

　また、ナイター設備について、設備投資に約１５億円かかるというのは、平成１２年６月頃のもので、本格的な施設を整備した場合の試算であり、例えば、仮設用の発電機を用いた場合には、約１０億５千万円という試算になっている。なお、設備投資に対する効果として、設備投資を１０年間で償還するとした場合、年間約１億５千万、それに電気代、施設の保守、警備等の諸々の経費が年間約４億円弱の資金が必要となる。北陸の場合、ナイターは期間が７～９月に限定されるという前提で、どれくらいの入場者、売得額の増を見込まなければならないかを試算しており、今の数字に当てはめると、１日あたりの入場者数で現在の倍程度ないと採算がとれないという計算になっており、そういう意味では難しいのではないかとい

う状況である。

委　員：　色々と分類されているが、この６～７年、毎年赤字が続いている現状の中では、時間的余裕がないと思う。従って「速やかな対応」の中でも、売得金額を上げるための施策として優先順位をはっきり付ける。今後の対応については、中長期的に時間がかかるものについてはなるべく排除し、ここ２～３年で十分出来て、しかも効果が上がるというものに絞っていくべきではないかと思う。金沢競馬場の雰囲気を一変させるという抜本的なものも大事であるが、赤字を止める為の施策を優先順位を付けてやっていけば良いのではないか。

○　振興策［専用場外発売所の設置］について

委　員：　北陸圏は、市場規模も大きく、他競技との競合も少ないようであり、採算性は十分にあると考えられることから、民間の参加による場外発売所の設置についても積極的に進めていけば良いのではないか。「速やかな対応」の方には入っていないが、民の参加、地元合意が取り付けられれば、早急に対応が可能ではないかと思うので、今まで以上に積極的に取り組んでもらいたい。

委員長：　インターネットでの馬券発売が少し増えていると聞いたことがあるが、これは場外馬券売場に入るのか。

委　員：　南関東では５月、地方競馬共同では１０月からインターネットによる発売を始めており、今までの電話投票と合わせると３割程売上げが伸びているようである。これはＩＴ企業参加による提案もあって、金沢競馬も含め全主催者が一体となって良い提案であれば取り組んでいくということになっており、そういう意味では大きな期待を持っている。

委　員：　７月１日の新聞記事で、愛知県がコンビニエンスストアでも馬券を発売できるように特区申請をしているとあったが、金沢に同様の事情を持ち込めるかどうかは非常に至難ではあるが、検討も全く出来ない訳ではないと思う。また、郵政公社で民営化に伴い馬券等の発売の議論があるということも聞いたことがある。多くの市民は、公営競馬といえどもギャンブルということで、何となく気恥ずかしくて行けないというものを持っていると思うが、電話投票だとか、コンビニエンスストア、あるいは郵政公社等で扱うとなれば、買ってみたくなることもあるのではないかと思う。

　先般、競馬事業局長から県職員に対し「競馬場に足を運んで下さい。」というチラシを配ったと聞いているが、職員は火曜日の開催に行けるかと言ったら行けないと思う。しかし、ナイター競馬であれば県・市の職員も行くかもしれない。売上げを増やさなければいけないということであることから、施設をいくら充実させたとしても、多くの方が罪悪感なく参加する機会を作っていかないことにはどうしようもないのではないか。先般、実際に競馬場を視察して多

くの方が感じていたと思うが、年金族的なファンが非常に多い。そういうことから場外発売所の利用、あるいはナイター開催ということを、これからの議論の中で力説していかざるを得ないのではないかと感じている。

事務局：　場外発売所というのは、本場以外へ赴いて勝馬投票券を買える場所であり、その中には、主催者が共同で設置する共同場外、主催者単独で設置する専用場外、発売する窓口が少ないミニ専用場外がある。その他に民間が設置し、それに対して主催者が契約して発売していくものなど色々なケースがある。それらは、ある場所にお客さんが赴いて馬券を買うという部分については共通している。

インターネット投票というのは在宅投票であり、電話あるいはインターネットで投票することが在宅で出来る制度である。金沢競馬については、地方競馬の「D-net」というシステムにより、これまでも電話投票を実施しており、１０月から更に使い勝手の良いものとして運用している。

その他、全国的に多くのインターネット利用者を呼び込もうということで、ＩＴ企業の力を借りて行う方法がないかという部分が色々と模索されているところであり、地方競馬全体で何とか取り組んでいかなければいけないと考えている。

愛知県の特区申請については、ミニ専用場外の規制を緩和して欲しいということである。場外発売所を設置するには、農林水産大臣の認可が必要であり、設備の形態、文教施設等からの距離等の規制あるが、ミニ場外については規模も小さいことから、知事がある程度地域の合意を書面で証明すれば足りるのではないかということで、規制緩和について愛知県から申請を行っている。この度、内閣府においてミニ専用場外については、特区を認めるということになっており、今後同様のケースで各競馬主催者が特区申請を行うことは可能だという状況にある。

委　員：　畜産振興は､各地方競馬からの財源によって施策がなされており、中央畜産会においても、１０年前から地方競馬の将来は場外発売所を避けて通れないと言われてきており、県の畜産会においても場外発売所の設置については、知事への要望書に毎年載せている。

委　員：　地方競馬のホームページを見ていたら、笠松か名古屋で民間の場外発売所を作るという欄があった。その中には、1日の運営費、必要な規模等の募集内容も出ていたので、皆さんにも参考までに見てもらいたい。

○　振興策［思い切った施設の改修］について

委　員：　最近の競馬場は、馬券を売っていれば良いという時代ではなくなった。中央競馬や地方競馬も色々とやっており、野菜販売や子供向けのショーをやって結構来場者が来ている。「競馬場はこういうふうに変わった」、「競馬場に行けば何かやっている」というふうに

することが必要である。金沢競馬場は色々な事が出来るスペースがあり、そのスペースをどのようにすればファンに喜んでもらえるか、しかも、お金をかけないでどんなことが出来るかを議論したら良いのではないか。

委　員：　畜産会では、毎年畜産フェアを実施しており、その期間の来場者は通常より千人余り増えている。競馬開催中に仮設の廉売所を作って、農畜産物の廉売を行い、主婦や若者にもＰＲすれば、来場者のうち何人かは馬券を買うこともあるのではないか。

委　員：　施設改修の中にゲームセンター、保育室等があるが、分けて考えた方が良いのではないか。子供連れや若者向けに１日中遊べるという意味では同じ性質かもしれないが、ゲームセンターは色々と大変だと思うが、保育室は今ある部屋で、保育士を子育てに関する財団等に依頼すれば出来そうな気がする。託児室があったら来るかという調査は難しいと思うが、実施してみたら以外と便利ということになれば良いのではないかというくらいの気持ちで試験的に実施してはどうか。

委　員：　他の競馬場に比べると、金沢競馬場の馬場も場内も一番綺麗であり、ファンに来てもらうのに決して恥ずかしくない施設と馬場を持っていると思う。個々に修繕等を要する部分はあるかもしれないが、今、集客を図るために、多額の費用を投じてレストランを充実させる等の施設改修は、あまり緊急の議論が必要ないのではないか。家族や仲間が４～５人で集えるような雰囲気作りはあっても良いが、エスカレータ等の設置は老齢者を対象としたもので、そういう方に楽しんでもらうことも大事ではあるが、若い世代を取り込むためには、思い切ってナイターに切り替えが出来るかどうかではないか。ナイター設置費用に加え、その他の施設の費用を考えると非常に負担になることから、個人的にはナイター等の議論に終始し、施設改修は、時々において必要不可欠な部分の改善を図るのが良いのではないかと思う。

○　振興策［在厩馬の安定的な確保］について

委　員：　面白い競馬番組をということでの頭数立てについては、事業局でも非常に苦慮していると思う。逆説的な意見になると思うが、先般、調教師、騎手、きゅう務員が口を揃えて言っていたとおり、賞金に大きな問題があるのではないかと思う。主催者側も苦しい財政の中で色々とやりくりしていると思うが、もう少し賞金を上げることによって関係者に還元される部分が多くなれば、馬主は良い馬を多く持ってくれ、レースも面白くなるのではないか。そのあたり、もう一工夫あっても良いのではないかと思う。

それから、中央競馬には天皇賞があるのに、知事賞、市長賞がない。そういったものを設けても良いのではないか。

あと、馬主も多頭数を保有するのは非常に難しい状況にあること

から、１人当たりの負担を小さくして共同出資で馬を購入し、競馬場に出走させるような機会を広げて欲しいというのが関係者の声としてある。

委　員：　金沢競馬にマッチした競走をさせるために、賞金関係を見直し、ＰＲに努めれば、ファンが増えるのではないかと思う。

事務局：　石川県知事賞は白山大賞典（１０月４日）、金沢市長賞は百万石賞（6月１２日）である。宣伝が上手くないことから、知れ渡っていないのではないかという部分もあり、広報のまずさというものもあると思う。

委　員：　非常に難しい問題であると認識しているが、賞金、諸手当を上げれば良い馬が集まり、良いレースができ、それなりの良い効果があると思うが、現状では難しい部分もある。１つの解決策として、出走制限の緩和、他場との交流について検討すべきではないか。今の地方競馬は場間場外発売等の促進に力を入れているが、面白い番組を作るという意味では、ＪＲＡとの交流競走を増やせば、中央の騎手も来るし、レースも一段と面白くなるというような効果も期待できるので、馬の安定的な確保ということでは、一場に限った場合の問題として、ある程度の効果があるのではないか。周辺競馬場と連携することにより、ある程度解決できる方法もあるのではないかと思う。

委　員：　賞金をこれ以上下げるのは良くないと思う。金沢競馬で最低の一着賞金、逆に交流競走以外での最高の一着賞金は幾らか。
　ＪＲＡとの交流競走、認定競走及び東海地区との交流は年間どれくらい行われているのか。金沢だけの番組ではファンも飽きることから、色々な所と交流を重ねることによって、有名な騎手、馬が来るから見に行こうということになるのではないか。

事務局：　一般競走の最低の１着賞金が１６万円、交流競走も含めた最高が２，５００万円、交流競走を除く最高額が５００万円である。
　ＪＲＡとの交流競走は１４レースで、認定競走が１０レースである。

委　員：　賞金的には良い方かなと思う。前回の関係者の話を聞いたときに、「金沢だけ、自分たちだけでやる」というような厩舎関係者の声もあったが、金沢だけでやっていても駄目であり、主催者側が活発に進めて欲しいという気持ちで聞いたものである。

事務局：　ＪＲＡとの交流競走で、新馬戦については、ある程度入ってきた頭数で精一杯の分を行っており、未勝利戦についても、新馬戦の３分の１位の制約がある中で精一杯のことを行っている。
　ＪＲＡ交流競走の他場との比較については、競走数は同程度であると考えている。ただ、金沢は積雪という条件があり、通年で開催している他場と比べた場合にはこれが限界ではないかと思う。また、認定競走については、他場に比べ少ないようなイメージがある。

委　員：　ＪＲＡの認定競走で金沢の馬が勝つと、中央競馬に出ることがで

き、そのジョッキーが勝つようになると、金沢競馬にもこんな良い馬がいたのか、こんな騎手がいたのかと全国のファンが理解するので、そういう点で、認定競走は年間１レースでも２レースでも増やしたらどうか思う。

委　員：　交流等は開催中に毎日すれば、ファンが集まると思う。現在の馬場や調教は中央と地方は違いがあり、そういうことも念頭におきながら、きめ細かい部分を見極めなければならないと思う。

○　経営改善策［各種業務の民間委託による経費削減］

委員長：　事務局では、どういった点について意見を聞きたいのか。

事務局：　今年１月から施行された競馬法改正によって、色々な面で委託が可能になった。こういった部分は民間に任せた方が良いのではないかという意見等を伺い、今後の参考としたい。

委　員：　ソフトバンクと岩手競馬が提携し、その他にも金沢競馬を含めた地方競馬が提携しているという記事があったが、それはポータルサイトとして非常に強力な集客力を持っているということに魅力を感じて連携しようという発想なのか。

事務局：　ポータルサイトを利用したいという部分については、幾つものＩＴ企業との契約によることが必要だと思う。ソフトバンクの話については、単にそれだけでなく、電話投票の全体について工夫を凝らし、色々なサービスを付加させることができないだろうかという提案がされている。それに対し、楽天は、現在のシステムにポータルサイトの部分だけを新たに付けるという違いはある。

委　員：　ライブドアはいち早く高知競馬とタイアップしたが、資料を見る限りでは、馬券の販売だけでなく、開催権、要するに番組等にも携わり、それを高知だけでなく、全国ネットで販売すれば利益になるということで動かしていたらしいが、全然進展していないようである。法律的には県・市でなければ競馬は開催できず、民間が開催しようとすれば法改正が必要である。そういう意味でもＩＴ企業との連携は慎重を期してもらいたい。

委　員：　ＩＴ企業との連携については、地方競馬主催者にとって、新たな客が増えるという利点があるので、原点に立ち返って、１つか、２つか、３つか、いずれが良いのか検討している状況である。

委　員：　ここでの議論の１つは、ＩＴ企業との連携というのと、もう１つは県・市が競馬場の運営に関してアウトソーシングして、もっと経費が削減出来ないかというものとがあるのではないかと思う。過去の推移を見ると、賞金、手当が平成１４年度から急激に落ちているが、職員費は、平成１３年度あたりから見るとほとんど変わっていない。最終的な赤字も２億程度であれば、この辺に検討の余地があるのではないかというふうに思う。これだけ賞金を削って、あるいは厩舎、騎手のリストラを出来るだけやってしまった。それ以外の部分について外部委託出来ないか。そういった面のメスも必要じゃ

ないかと思っている。

委　員：　新しいジャパンネット銀行と連携して非常に使いやすくなったのではないかと思っているが、もっと簡単な方法はクレジットカードを使う方法である。クレジットカードによる馬券の購入は法的な問題等もあって大変難しいのではないかと思うが、どんなところが難しいのか調べてもらいたい。今、特区や構造改革が進んでいる中で、出来る方法があるならば法改正まで持っていくようにすれば良いと思う。

事務局：　次回に報告させてもらいたい。

委　員：　ＡＴＭで宝くじを発売する準備を色々行っており、平成１８年度には出来るようになると思うが、同じようにＡＴＭで勝馬投票券を発売するというのは可能なのか。

委　員：　発売業務や保安業務というものを民間委託することによって、かなりの構造的な出費の減が図られる可能性があるので、是非検討してもらえればと思う。

委　員：　競馬番組によって競馬が運営されるわけであるので、事業局全体で、来年度の競馬がどうあるべきかを十分に検討し、対応してもらいたい。

○　経営改善策［各種料金の見直し］について

委　員：　基本的な入場料関係は、それはそれとして、門とかゲートというものを開放的にオープンにして、誰もが気軽に来場出来るようにしてもらいたい。

委　員：　駐車場の有料化について、ファンサービスのためということであるが、もし有料にした場合にどれくらいの収益があるのかという具体的な金額を見ながら、逆に少ししか収入が入らないのに実施することでファンの足が遠のいてしまうとか、路上駐車が増えたりとか、そういうこともあるかと思うので、有料化による収益とデメリットとを比較しながら検討してはどうか。

委　員：　今ほどの意見は、考えなければいけない問題ではあるが、中央競馬会の駐車場は有料であり、有料化にしたからといってファンが減るということはあまりないと思う。実際に駐車場整理に携わっている従業員もおり、そういう経費の捻出ぐらいはしても良いのではないか。路上駐車の危険についても、金沢の場合には余りないのではないか。

無料バスについても、能登、加賀、富山、福井から集客しているが、有料にしてもファンが減るというような大きな懸念はない。入場料については、施設の利用ということで、これはこれでかまわないと思う。

あと、入場門で配付している券、景品については、割愛しても良いのではないか。

委　員：　冠レースの料金体系について聞きたい。他の競馬場でもやってお

り、企業にとっても非常に宣伝効果があり、冠レースを行うと関係者２０人程度は無料で来て、表彰式には代表が出席する。企業の来場者の中には馬券を買う人もいると聞いている。

事務局：　冠レースは、個人、法人を問わず、１万円相当という形で実施している。企業に対して１万円というのは、ちょっと少ないのではないかということから、今ほどの意見の様なサービスを充実させて料金を上げればどうかといったことなども含めて議論をお願いしたい。

委　員：　１万円は安いのではないか。最低でも３～５万円程度にして、その代わりに何人かを招待して、特観席で見てもらい、代表にプレゼンターをしてもらうということにすれば、各企業が競って応援しようということになるのではないか。

事務局：　今のところは１万円で実施しているが、元々は企業を対象にスタートし､定着するまでの間ということでここまで来たのだと思うが、幸いにして多くの個人、企業が参加するようになっており、そろそろ差を付けても良いのかな、上げても良いのかなという感じはしている。

○　作業部会の設置について（委員長より提案及び承認）

- 本日の議論を踏まえて、事務局と細部を調整するために作業部会を設置
- メンバーは委員長から西副委員長、坂下委員、柴田委員を指名
- 部会の責任者はメンバーからの互選
- 次回の委員会で作業部会案を提示

(3)　次回検討委員会の日程等について

○　第５回金沢競馬検討委員会スケジュール（案）の承認

○　第５回金沢競馬検討委員会の開催日の決定

- 平成１８年１月２６日（木）午後

○　第５回金沢競馬検討委員会の公開の決定

3　閉会